

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100586
法人名	医療法人社団慶城会
事業所名	グループホーム仰星台東郷
所在地 (電話番号)	日向市東郷町山陰丙1507番地2 (電 話) 0982-50-7051
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年7月4日

## 【情報提供票より】(19年 6月10日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費3,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要( 6月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院、土田歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは通行量の多い国道に面して建っている。内部は敷地(庭)も含めて、家庭的な雰囲気であり、綺麗な花壇も整備され、利用者の方々の表情も豊かで笑顔が絶えない暖かい雰囲気のホームである。近隣の方々との関係も非常に良好で、気軽に近所の方が立ち寄られている。地区との関係も自治会に加入し、良好な関係構築が出来ている。日常の生活支援の充実に重点を置いているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、入居契約書の整備、申し送りの徹底(職員のサイン)、第三者への相談機会の確保など、職員全員で検討し、工夫・改善がみられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事前に管理者より職員全員に自己評価票が渡され、職員全員で項目内容の実施状況を検討するなど、日常業務の中で、なかなか出来ない業務の振り返りを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市町村窓口、自治会、消防団、家族代表等の地域に密着した運営推進会議が定期開催されている。会議では、運営状況やホームの規定等変更の提案・説明、第三者からの意見、検討が行われており活発な運営が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	訪問時や電話等での連絡時に家族の意見や苦情を聞くなどするとともに、苦情箱の設置に追加し意見箱の設置など、積極的に意見、苦情等の聴取に積極的に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	行事などへの地域、近所の参加は勿論のこと、日常的に近所からの訪問や声かけがあり、地域との密着が強く保たれている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなり、理念の再度見直しがされており、地域の中で入居者を支えていくという目的が明確にされている。パンフレットは現在、作成中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基本とし、分かりやすい言葉で「職員心得」が掲示、具体的に実践されており、管理者、スタッフともに真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事への地域の方の参加も多く日常のご近所の方が気軽に訪問したり、自治会に加入し、地域の中になんとけこまれ積極的な交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員全員で自己評価に取り組み、「評価」を日常の業務の振り返りとして有効に活用している。		昨年の評価の改善についても検討し、前向きな改善・努力がされている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催に取り組んでいる。会議では運営状況や、災害時の協力連携、家族の意見等、取り上げ前向きな検討がなされている。		行政関係者、地区の消防団長の参加もあり、積極的な取り組みがなされている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と蜜に連携を持っており、多岐にわたり助言・指導を得て健全に運営に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話等で詳しく状況を伝えるとともに、月1回職員が各家族に自筆の便りをしたためている。預かり金管理も台帳を整備し、本人や家族に報告・押印をもらい間違えのないように取扱をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見を求めたり、運営推進会議宛に家族からのアンケート調査を独自に実施したり、苦情受付の他に、意見箱の設置を試みるなど積極的に意見を採り上げる機会作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで管理者の変更は無く、職員の交代も少なく運営がされている。新しい職員は利用者నికిちんと紹介し、利用者のダメージにならないように注意が払われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画の作成、研修後の他職員への伝達等、また同法人の他事業所職員と一緒に勉強会を行うなど、職員の質の向上に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームの管理者と毎月1回会合を持ち、管理者としての自己研鑽に励まれ、職員も同法人の他事業所職員と勉強会を実施するなど、積極的な取組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が訪問し顔を見せ安心感を与えるなど取り組みを行っている。利用当初には、家族に面会に来てもらうなど、利用者が少しでも安心して生活できるように配慮されている。	○	今後、午後のみ利用とか、入浴だけ利用されるとか、食事を一緒に何回かする、試験的な泊りなど、利用にあたり不安感のある利用者への馴染みながらの対応も検討してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として利用者との関係構築がなされており、利用者から教えてもらうことを職員全員が大事にしている。特に行事時の食事作りなど利用者の経験が、重要な支えとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、言葉や表情、態度から利用者の意向を捉えるよう職員が意識しており、意思疎通困難な方は、ご家族から情報提供してもらうなど、一人ひとりの思いを把握するよう、取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を尊重しながら、職員全員で検討し計画を作成している。		計画検討の場に、利用者や家族が参加されると更に良い取り組みとなるのではないだろうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画で現在、対応している。必要時には状況の把握、利用者・家族の意向を踏まえ見直しを職員全員で検討する体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助など家族の状況により、臨機に対応されている。また地域に向けて認知症高齢者についての勉強会を予定するなどの取り組みがみられる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、協力病院の往診があり、適切な健康管理がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用当初に、重度化した場合や終末期のあり方について、家族と相談し「同意書」という形で、明確にされている。状況の変化にて見直しも行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	建物内には張り紙や掲示物が最小限しか無く、利用者の生活記録(写真等)は、各居室に個別に置いてあり、家族だけが見れるというプライバシーに配慮した取組みがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や意向に出来る限り配慮していくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を囲み、会話を楽しんでいる。利用者が片付けなど手伝われたり、一緒に時間を共有している雰囲気がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間を決めて入浴をされている。一人ひとりでの入浴で、その方の希望に合わせた湯加減・湯の量など配慮している。	○	利用者の希望に応じて曜日や時間の自由度の高い入浴が、出来るような取り組み・工夫をしてほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の飾りつけ等を利用者と職員と一緒にしている。一人ひとりの役割、楽しみ等、把握し活かせるように支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員の意向、希望には添えないが出来る限り、運営上の工夫を行い実施されている。積極的な外出支援が管理者、職員の共通認識としてある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は鍵をしておらず、自由な出入りとなりおり開放感がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との災害時の連携・協力、ご近所の方の支援体制が整い、マニュアルも完備され、職員全員が災害時の対応を意識しており取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、個別個別に記帳・把握され体調管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感、木のやさしい雰囲気があり、良い意味での生活の匂いのする空間であり、利用者が居心地良く過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットはホームで準備されているがそれ以外の箆箆や物入れなどすべて利用者の使用していた馴染みのものであり、利用者にとって、落ち着ける居室となっている。		